

ポスト 2005 年の IT 活用教育と子どもの学び

聖心女子大学 教授 永野 和男

1. 人間の能力と情報技術

- 情報がいつでもどこでも取り出せる
- 未知の問題解決に迫られる
- ひとりの判断が瞬時に世界に影響する
- ・記憶していることの意味？
- ・能力を評価する方法？

2. 情報技術の向かう先

- ・見えないコンピュータ（自動化）
- ・洗練された個人の道具
- ・コミュニケーションの支援

3. 情報化時代の能力観

- 知識より、適応、経験、問題解決へ
- 社会人として身につけておくべき知識・技術
- ・調査 (Research) ・コミュニケーション (Communication)
- ・企画 (Planning) ・対応 (Coping)
- ・説明 (Account)

4. これからの学力・求められる人材

- ・基礎的な知識・技術（知見の伝承） ・論理的な思考
- ・グローバルな視点
- ・コミュニケーション（人に伝える、人から学ぶ）
- ・情報の活用（情報をクリエイトできる、道具を使いこなす）
- ・他人への配慮、自己への気づき

5. 人が学ぶということ？

- ・ルーチン（繰り返しにより意識しなくてもできるようになること）
- ・気づき（常に意識をもち、獲得するよう働きかけること）
- ・興味のないものは組織化されない（好奇心）
- 記憶・理解のメカニズム
- 自分でタグ付けする

6. 教育に求められる情報技術

(大人にとっては)

- ・自動化をもとめる IT(便利、楽)

(子どもにとっては)

- ・面白い、挑戦したい (意識化を求める)
- ・自分の姿 (思考) がみえる レフレクション メタ認知 モデル化
- ・もっと知りたい (知的好奇心)
- ・創造したい (つくる喜び、自分の確認)

7. これから求められる学力をどのように身につけるか

- ・学習カリキュラムのモデルの変化
- ・課題解決型学習
- ・地域と連携をとった学習

学習課題の設定

学習環境の整備

デザイナーとしての教師

8. 新しい能力をどのように評価するのか？

道具＋人間 ＝ 能力

知っているかではなく それを使って解決できるか

情報活用能力を評価する大学入試

(情報を読み取る力、判断力、表現力、応答力) を重視

(プレゼンの評価の例)

- 1) 筋道立てて構成されているか
- 2) 伝えたい内容が聞き手に十分に伝わるプレゼンができていたか
- 3) わかりやすく適切な内容の資料が作成されているか
- 4) それぞれの情報源は、正確か
- 5) 質問に対して的確な受け答えができているか

9. ポスト2005の学校

教室からインターネットで…

授業 (教科、日常の学習活動) の支援

開発から 普及の時代へ

どんな授業のスタイルを啓発するか

メディアを活用することが

新しい授業を創造する

新しい学力を育成する

これまでの学力を定着させる

コミュニケーション・協調を必要とする